特集2

とちぎ散歩 Special

日光例幣使街道

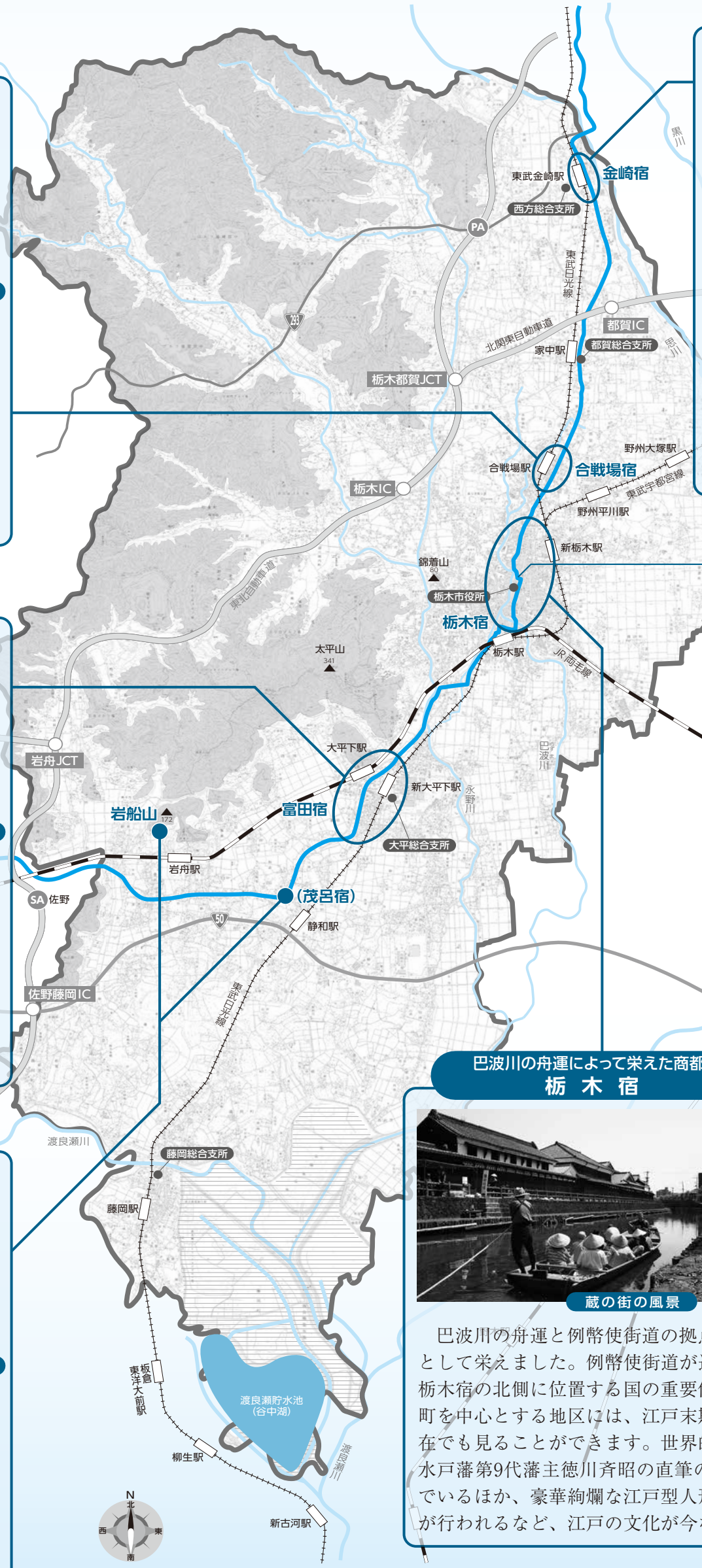
日光例幣使街道は、中山道の上野の国倉賀野宿（現在の群馬県高崎市）からはじまり、太田を経て下野の国に入り、現在の楡木宿（現在の鹿沼市楡木）までを通る江戸時代の街道です。楡木宿からは日光道中壬生通りと合流して、日光に至ります。

この街道を江戸時代、朝廷から毎年日光東照宮に幣帛（神への供え物）を奉納するための勅使（天皇の使者）が通行しました。元和3年（1617年）に最初の勅使が朝廷から派遣され、正保4年（1647年）からは、派遣が慣例化されました。以降慶応3年（1867年）までの221年間、毎年行われたことから、「例年派遣される幣使＝例幣使」と呼ばれるようになり、街道の名の由来にもなりました。

かつては倉賀野から楡木までの全長約96.3kmの道のりに13の宿駅（街道の拠点）がありました。現在の栃木市には、岩舟町下津原から西方町金崎に至るまでの約25kmの道のりに、4つの宿駅の名残が見られます。

近年では、例幣使街道を徒歩や自転車で巡ったり、街道ウォークのイベントが開催されるなど、実際に街道を訪れる人が増えています。かつての街道を辿って、歴史の面影に触れてみませんか？

<参考資料>日光例幣使街道「街道マップ」 平成23年 栃木県教育委員会文化財課発行



古戦場の名残りを伝える 合戦場宿

升塚の獅子舞

「合戦場」の名は、この地が戦国時代の大永3年（1523年）、宇都宮氏と皆川氏の合戦が行われた古戦場であることに由来すると言われています。都賀町升塚に伝わる、市の無形民俗文化財である「升塚の獅子舞」は、日光東照宮の地固めとして奉納されたと伝えられています。

繁栄の面影をしのばせる 富田宿

川連天満宮

現在の大平町富田周辺は、かつては南北約1.3kmにわたり四つの町に分かれた宿場町として栄えました。街道沿いには、かつての本陣跡を示す碑などが残ります。また、川連天満宮に残る庚申塔には、寛政7年（1795年）の銘で「右こが　向さの　左日光」と道標が刻まれています。

古くからの信仰の地 岩舟地域

岩船山

日本三大地蔵尊の一つに数えられ、江戸時代に特に信仰を集めた岩船山など、名刹が残ります。また、現在の和泉交差点付近には、正規の宿場ではないものの「茂呂宿」という宿があり、かつては高札場も置かれていたと言われています。

例幣使街道最後の宿駅 金崎宿

愛宕神社

金崎宿は、例幣使街道が日光道中壬生通りと合流する前の最後の宿駅で、旅籠十数件の小さな宿場町でした。市の史跡である「愛宕神社」は、慶長18年（1613年）、西方藩主藤田信吉の命により、金崎宿の鬼門に建てられた社であると伝えられています。

巴波川の舟運によって栄えた商都 栃木宿

蔵の街の風景

嘉右衛門町の街並み

巴波川の舟運と例幣使街道の拠点であった栃木宿は、北関東の商都として栄えました。例幣使街道が通った現在の栃木蔵の街大通りや、栃木宿の北側に位置する国の重要伝統的建造物群保存地区、嘉右衛門町を中心とする地区には、江戸末期～近代の多くの歴史的建造物を現在でも見ることができます。世界的にも希少な喜多川歌麿の肉筆画や水戸藩第9代藩主徳川斉昭の直筆の書など貴重な資料の発見が相次いでいるほか、豪華絢爛な江戸型人形山車が練り歩く「とちぎ秋祭り」が行われるなど、江戸の文化が今なお息づいています。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号　平25情複、第855号）